

令和元年度岩手県立博物館協議会議事録(確定版)

日 時	令和2年1月29日(水)14時～16時15分
場 所	岩手県立博物館 会議室
出席委員	星俊也(会長・選任)、本田岳雄、菊池正樹、玉館誠、齋藤桃子、細越千絵子、及川亜希子、松政正俊、菅野文夫、山本玲子、沼里由紀子、小山信一 各委員(12名)
(県側出席者)	佐藤公一生涯学習文化財課総括課長、岩淵計文化財課長、佐々木義秋生涯学習担当課長、澤口恵美主任
生涯学習文化財課	工藤啓一郎文化振興事業団事務局長
文化振興事業団	
博 物 館	高橋廣至館長、千田貴浩副館長、小山内透学芸第一課長、木戸口俊子学芸第二課長、濱田宏学芸第三課長、花山智行総務課長、佐々木訓主任主査、小野寺聡美主事

1 開 会	
司会進行 総務課長	<p>協議会委員総数15名中、本日の出席者は現在12名である。半数を超えているので、岩手県立博物館管理運営規則第9条第2項の規定により本会議の成立を報告する。</p>
2 館長挨拶	<p>皆さんこんにちは、県立博物館、館長の高橋と申します。本日は大変お忙しい中、お寒い中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。本日は、どうぞよろしくお願ひ致します。</p> <p>まずもって、日頃の博物館業務の推進と当博物館協議会へのご理解とご支援に感謝申し上げます。また、本年度より当協議会の委員をご承諾いただきました皆様にも厚く御礼申し上げます。</p> <p>最初に私からお話ししますのは、皆様もご存じの、当館においての、いわゆる「不適切サンプリング」についてでございます。現在、県教育委員会と一緒に様々な角度から調査中ではありますが、皆様にはご心配とご迷惑をおかけし、大変申し訳なく思っております。このことにつきましては、私の挨拶の後に、県教育委員会、及び当館副館長より報告させていただきます。</p> <p>さて、次に私からは、今年度の県立博物館の取組状況を御報告させていただきます。</p> <p>まず、最初に例年通り、入館者に関してご報告します。昨年度の入館者数は、4,7883人で、年間目標数値であります4万人を達成することができました。この入館者数は、過去20年間では3番目の記録でありました。今年度入館者数は、昨日現在で、4,2196人で、5年連続での4万人以上を達成しました。今年度入館者数も過去20年間では昨年を上回って3番目の数字を現在維持しております。手前味噌ではありますが、職員一同一丸となってお客様のために頑張った成果と考えております。</p> <p>次に、本年度の展示会等につきまして、お話しします。昨年、3月1日～5月6日まで開催されたテーマ展「岩手の往来～道路のいま・むかし～」展ですが、会期中に11,974人が入館されました。今回のテーマ展では、参勤交代や蝦夷地開発、ロシアからの蝦夷</p>

地防衛のために往来に活用された奥州街道や現在も宮古盛岡横断道路として開発が進み、復興の一役を担う、かつての宮古街道を中心に紹介しました。展示会場には、懐かしい岩手県内の道路や橋、そして、各地域の昔の風景が映し出され、特に高齢者の皆様に喜んでいただきました。

次に、6月8日～8月18日までは、同じくテーマ展「古・岩手のクロガネー発掘から見えてきた古代～中世の鉄文化」展を開催しました。入館者数は、10,297人でした。

平成以前は、県内での鉄生産関連遺跡の発掘の調査事例は少なく、特に文献資料の乏しい古代～中世に関する究明は不十分なものでした。近年沿岸部において三陸自動車などの大規模開発をはじめ、東日本大震災に関わる復興関連の発掘調査により、古代～中世の鉄生産関連遺跡の発掘が相次ぎ、調査事例が増えたことで様相が明らかとなりました。

この展示会では、沿岸部の鉄生産関連資料を中心に、最新情報と発掘から見えてきた岩手の古代～中世の鉄生産の技術的変遷を紹介しました。

次に9月22日～11月24日まで企画展「よろい・かぶと・かたなの世界」展を開催しました。この展示会には、13,060人の方が来ていただき、大変好評でありました。この展覧会は武家の象徴として現代に伝えられる甲冑や刀剣、刀装具などを紹介しました。南部藩のよろいや当館所蔵の重要文化財・名刀「助真スケザネ」はもちろんのこと、秋田の佐竹義重（サタケ・ヨシシゲ）、米沢の上杉景勝（ウエスギ・カゲカツ）、仙台の伊達政宗（ダテ・マサムネ）の甲冑を展示し、また、全国から「変わり兜（カブト）」等も展示しました。

約250点を集め、展示しましたが、多くの方から、「よく、これ程のよろい・カブト・かたなを集めることができましたね」とお褒めの言葉をいただきました。

次に、現在開催されている、共同展「被災資料再生の今」展は、1月11日から2月24日まで開催します。

展示会の名称からもおわかりのように、東日本大震災では、岩手県内でおおよそ50万点の文化財が津波で被災しました。当館でも発災直後から被災文化財の救援活動に取り組んでおりますが、津波で被災した文化財の再生は国際的にも初めての試みであり、現在も試行錯誤を繰り返しながら続けております。そして、この活動は資料の物質的な再生のみならず、文化の証としての学術的価値を再認識し、将来へ伝えていく、総合的な取組と考えております。

この展覧会では、資料再生のために構築された方法と再生の現状、古文書、漁撈用具、押し葉標本、絵画などから垣間見える三陸の文化や先人の業績を紹介しています。

そして、3月16日～5月6日まで、今年度最後の展示会、「化石の水族館」展を開催する予定になっております。

地質時代の海や湖にいた生物を中心とした化石の展示を行います。化石となった生物たちが生きていた時にどんな生活をしていたか、をわかりやすく伝えることを目的として、生物の体の化石だけではなく、生物の這った跡や巣穴などの生活の痕跡が化石となったものも展示します。また、奥羽山脈を中心に岩手の魚類化石を研究した佐藤次郎氏の標本も併せて展示します。

さて、次に、今年度も大きな展示会の他に、トピック展やバックヤードツアー、ナイトミュージアム、クリスマスコンサート、クラシックカーの展示、体験教室、日曜講座や学校への出前講座等々、職員が従前の方法に工夫を加えながら実施して参りました。中でもクリスマスコンサートはこの数年工夫を凝らしながら開催しており、多くの方に楽しんでいただいております。今年度は、毎年各コンクールで金賞を受賞しています盛岡三高の吹奏楽部の皆さんにお願いして、ご来場の皆さんに楽しんでいただけるコンサートを企画していただきました。

また、今年度の「博物館まつり」もこれまでの実績やアイデアを活かしながら企画したのですが、昨年度と同様に、折り悪く当日台風の襲来により、今年度は中止という残念な結果になってしまいました。しかし、担当者の努力により、開催予定の企画を後日分散して行うことにしたことから、子どもたちをはじめ、多くの皆さんに喜んでいただくことが出来ました。

次に、来年度の変更点についてのお知らせですが、近年、猛暑が続いておりますことから、来年度以降、県内の学校では夏休みが長く、冬休みが短くなります。そのようなことから開館日を調整しながら多くの子どもたちに来館してもらおうと考えています。その他にも、様々な企画をしておりますが、(当然のことですが、)子どもから、おとうさん、おかあさん、おばあちゃん、おじいちゃんまで、沢山の方に来ていただき、3世代が楽しめる博物館でありたいと思っています。

と申しましても、毎回申し上げているのですが、人気企画優先、入館者数増優先を前提とした運営をすることは考えていません。博物館にいらした方が、郷土にはこんな物もあったのか、また、こんな事もあったのか、と、新たな発見をしていただくことも博物館の大事な仕事であると考えております。

次に、文化庁の助成金を活用した事業についてご説明いたします。大震災津波から8年10ヶ月が過ぎましたが、当館では現在もなお、陸前高田市を中心とした被災地域の文化財保存修復事業に取り組んでおります。昨年度も、そして今年度も当館で被災文化財の修復展・地域展を開催しますが、この様な事業を全国に発信することも当館の役割と捉えています。全国でも地震や台風の被害を受けた地域は多く、文化財の修復に対しては大変関心が高いことを感じています。お時間があれば、是非、当館での修復作業をご覧頂きたいと思っております。また、日本博物館協会を始め、全国の多くの大学や研究機関、

多くの方のご尽力によって高田の被災文化財は修復されています。そして、北海道から沖縄まで、日本各地で修復文化財の展示やワークショップを開催してきました。まだまだ修復作業は続きますし、修復された文化財等につきましては、今後も当館で継続して展示したいと考えておりますので、その際にも是非とも委員の皆様にも、ご覧いただきたいと思っております。

また、当館の利用が困難な沿岸被災地域の高等学校 4 校、宮古市図書館の協力を得ながら収蔵資料を中心とした本県に関わる重要な資料の一部をデジタル化した教材開発をめざす「岩手デジタルミュージアム構築事業」は 7 年目を迎えております。これからも県内高等学校に撮影した資料を配信できるように取り組んでまいりたいと考えております。

最後になりますが、来年度は、当館 40 周年の記念の年になります。「みる・しる・わかる・三陸再発見」と題して、三陸を中心とした総合的な展示を開催し、三陸の、そして岩手の魅力を十分に紹介したいと考えております。

そして、来年度の入館者数が今年度と同程度でありますと、開館以来通算 300 万人になります。是非とも、40 周年の記念に 300 万人達成を果たすことができると、幸いと考えています。盛り上がるのではないかと考えています。

繰り返しになりますが、県立博物館の目指す方向としましては、多くの県民が身近に気軽に当館を訪れ、行って楽しかった、と思えるような博物館を職員共々、目指して行きたいと思っております。何度来ても楽しいと思ってもらえる博物館であり続けたいと考えております。

委員の皆様には、本日はどうぞ、忌憚のないご意見、ご指導のほど、よろしく願いいたします。

3 委員紹介

出席委員紹介

4 職員紹介

出席職員紹介

5 会長選任

委員の互選により星俊也委員を会長に選任

会長から職務代理者に菅野文夫委員を指名

6 議 事

管理運営規則第 8 条の規定により、本会議の議長は会長が務めることとする。

(1) 報告事項

[議 長]

報告事項 3 件を議題とする。

[佐藤総括課長]	「報告事項ア 「不適切行為事案」調査の経過報告について」佐藤総括課長から資料により説明する。
[千田副館長]	報告事項アに関連する県立博物館の対応状況等について、千田副館長から説明する。
【質疑応答】	
[斎藤委員]	<p>県立博物館だけでなく、どこの博物館でも最初からいた職員がいなくなり、また様々な働き方の職員が増えている。2017年に美術館組織の「行動指針」が作成されたが、これは日本博物館協会が作成した「行動指針」を基にしている。</p> <p>日博協が作成した「行動指針」を博物館に関わる人たちがより広く読んで、行動指針にしたがって行動することが大事ではないか。インターネット等でも読めるので、より広く周知を図った方がいいのではと思う。</p>
[佐藤総括課長]	<p>貴重なご意見に感謝する。</p> <p>色々な職場集団があるが、県立博物館のような専門機関は、人なり組織なりに特殊性、他と一緒にできない部分があるのだろうと考えている。今回の事案は、残念であり申し訳なく思うが、業務のあり方、館のミッション等も含め、いい見直しの機会をいただいたものであり、事業団、博物館と一緒に考えてまいりたい。</p>
[松政委員]	再発防止策に関してであるが、社会から博物館が認められ、同様の研究がストップすることのないようにと思う。博物館の倫理規定はどうなっているか。非雇用者への適用等どうか。
[佐藤総括課長]	県立博物館は、これまで他県にも誇れる業績を残してきていたが、今回は期待を裏切ったことになると思う。ただ、今後も期待に応えられるよう、機能が損なわれることのないよう、信頼回復を図っていきたい。頑張れ博物館、という声も多くいただいております、文化庁の指導も受けながら、対応を進めて参りたい。
[松政委員]	倫理規定の適用等について詳細の説明は不要であるが、社会に説明できるように、理解を得られるように進めて行っていただきたい。
[及川委員]	今回の問題の後、文化財の保存修復事業は継続しているのか。
[副館長]	当該事業はストップしている。事実解明、信頼回復が優先と考えている。
[及川委員]	当該学芸員は復帰したと聞いているが、また作業しているのか。
[副館長]	この作業には、一切関わらせていない。文化財レスキュー等に当たらせている。
[及川委員]	学芸員のモラルの問題であるとともに、組織的な体制の問題ではないか。当面の対応としてマネジメント研修を行うとのことであるが、体制自体の見直し、例えばマニュアル作成等は行うのか。

[副館長]	平成 26 年当時、問題が明らかになった際に、手続、マニュアル等を見直しし、改定したうえで、29 年度から再開している。その後は、不適切処理はない。 今回を機に、あらためて見直す必要があるか検討したい。
[及川委員]	相手方の承諾を取ることにしたのか。具体的に定めたのか。
[副館長]	相手の了解・了承を取るように改善した。
[菅野委員]	これまで突き詰めることなく基準が曖昧で、限られた専門家の中だけで処理されてきた問題だった。今のマニュアル、一般的な研究倫理とはちょっと違う、極めて専門的な分野であると思う。今まで見逃していたことをきちんとしようということなんだろうと思う。この分野の専門研究者が襟を正す機会になった。 県は調査をしっかりと進めているし、事業団もそれに基づいて動いていることが分かって納得したところである。
[議長]	平成 26 年度に不十分に終わったのは、こういう問題に対する意識が組織として薄かったということだろうか。
[佐藤総括課長]	平成 26 年度に明らかになった事案だけではなかった。当時、もっと広げて確かめるべきだったと思う。
[工藤委員]	専門的な分野は専門家、プロに任せてしまいがちであるが、今回の事案を奇貨として、全員が当事者意識をもってやらないといけないことを、事業団としては痛感した。 そのようなことを、職員に植え付けていく必要があると考えている。
[総務課長]	「平成 30 年度岩手県立博物館協議会の意見等への対応状況について」総務課長から資料により説明する。
[質疑応答]	特になし。
[副館長]	「令和元年度岩手県立博物館事業実施状況について」副館長から資料により説明する。
[松政委員]	7・8 月に入館料が落ち込んだのはなぜか。前年が多かったのか。
[学芸第一課長]	夏時期に企画展をやるのが通常で、予算も多くかける。今年度は企画展を秋に変更し、テーマ展を開催した。去年は子ども向けの内容でもあり、入館者が特に多かった。
[及川委員]	民俗芸能関係の鑑賞会が休止されている。予算の関係もあると思うが、検証されたのか。知り合いからは（前見た時は）とてもよかったとの声もあるが。

<p>[学芸第三課長]</p>	<p>以前は伝統民俗芸能鑑賞会という事業を実施していたが、現在休止している。</p> <p>40周年展に合わせて、沿岸の高校の民俗芸能を当館でと考えているが、団体に来てもらうのにバス代等かなりの金額がかかる。太鼓等を運ぶ費用もかかる。</p> <p>費用的な面から、ちょっとずつお金をかけて、子どもたちに楽しんでもらう方に向けている状況である。</p>
<p>(2) 協議事項</p>	
<p>[議長]</p>	<p>「令和2年度岩手県立博物館事業計画（案）について」を議題とする。</p>
<p>[副館長]</p>	<p>「令和2年度岩手県立博物館事業計画（案）について」副館長から資料により説明する。</p>
<p>【質疑応答】</p>	
<p>[小山委員]</p>	<p>40周年展について、三陸地域はまだ復興途上であり、自分にとっては魅力がないテーマのように感ずる。</p>
<p>[副館長]</p>	<p>三陸地域にはまだまだ知られていない貴重なものがあり、掘り起こして魅力をお知らせするなどしたい。</p>
<p>[小山委員]</p>	<p>昨年まで東京にいたが、慶応病院の並びに楽器の博物館がある。チェンバロ等を芸大の学生が演奏して聴かせていた。結構入館者が多かった。ある特定の宗教団体が建てた音楽博物館である。</p> <p>そういう催し物を考えてもよいのではないか。協力してくれると思う、立派な楽器が100台位並んでいた。</p>
<p>[本田委員]</p>	<p>40周年特別展は非常に大きな意味を持つものになるのだろうと思いながら、伺っていた。子どもたちを連れて行くとき売りになるものは何か。復興教育の視点なのか、ジオパーク的なものか。</p> <p>他のテーマ展は、タイトルでイメージが湧くが、40周年特別展は、テーマが大きい。どういうものになるのか、今考えている中身をお知らせ願いたい。</p>
<p>[学芸第一課長]</p>	<p>三陸再発見がテーマである。大震災を機に復興事業関連で色々な調査が進み、新たな発見も多々ある。こういう部分をお知らせしたい。震災から10年が経過して風化気味となりつつあるが、防災と復興、併せて三陸を訪れてもらうよう旅をテーマとしたい。</p>
<p>[小山委員]</p>	<p>私は三陸の気仙沼出身だが、あまり知りたいとは思わない。復興が進んでいない。入館者が引っ張れるかなと思った。</p>
<p>[議長]</p>	<p>三陸関連で、新しい発見の具体例としては、どのようなものがあるか。</p>
<p>[学芸第一課長]</p>	<p>私の専門の考古部門では、古代・中世の鉄生産について、動植物関係、生物部門でも、色々新事実が出てきている。</p>
<p>[本田委員]</p>	<p>恐らくこの時期は、東京オリンピック一色になっているかもしれない。小学校の立場からは、そのような中で、家の人、親が面白そうだと思うかどうかかと思う。</p>

<p>[小山委員]</p>	<p>今岩手では、「風の電話」や「影裏」などの映画や、「おらおらで一人行くも」など岩手基点で発信しているものがある。菊池雄星や大谷など素人受けするものに便乗して、専門的なことではなく、流行りものに乗ることも一つかと思う。</p> <p>標題は大事で、興味をひくようにということも大事かと思う。素人の意見で申し訳ないが。</p> <p>岩手県から発信できるものは多いと思う。</p> <p>野辺地尚義（のべちたかよし）という人物を知って、私は驚愕した。</p> <p>日本で初めて女学校を京都に作った。英語、ドイツ語ができて校長をやり、その後、東京の芝に「紅葉館」という社交サロンをこしらえて責任者になった。原敬の奥さんが後添えになった。</p> <p>そういう人をフォローして行って一堂に資料を集めれば、各地からかなり入館者があるのではないか。是非、それをお願いしたい。あらすじは作っておくので、役に立つのであればご覧願いたい。</p>
<p>[及川委員]</p>	<p>環状列石展は、縄文の世界遺産と関連してくるのか。</p>
<p>[学芸第三課長]</p>	<p>紹介する遺跡の発掘は、自分が掘ったものである。</p> <p>世界遺産関係を取り込むことも可能だが、直接は関係しない。</p>
<p>[及川委員]</p>	<p>北海道、北東北という、広い観点でやっていただければと思う。</p>
<p>[学芸第三課長]</p>	<p>国指定の史跡からものを借りてくるのは難しいが、関連するものが岩手県にもあったのだということを紹介したい。</p>
<p>[議長]</p>	<p>40周年特別展に戻して、テーマをアピールするような、興味をそそられるような、こんな風なというご意見はあるか。</p>
<p>[松政委員]</p>	<p>バフっとした大きなタイトルなので、実際何をやるのか分からないのは一つある。震災に対する感情が、人それぞれによって違う。</p> <p>宮古のジャズ喫茶が流されて、その後に・・・といったエピソードがあったりするが、震災をどの程度ベースに置くのかを考えながら、旅や三陸にまつわる具体的なものをとということか。</p> <p>子供たちにとって、自由研究や感想文の材料になるような、ということもあるかと思う。</p> <p>三陸は、気仙沼と大船渡が境目で温暖化の指標にもなる。生物関連も、震災を契機に一気に調査が進んだ。</p> <p>震災そのものをテーマにするのではなく、こんなものが見つかった、わかった、というように明るい方に持っていくのも一つの手かと思う。</p> <p>具体化していく必要があるのでは。</p>
<p>[小山委員]</p>	<p>三陸の鮑が世界一美味しいと言われている。</p>

[松政委員]	<p>韓国のホヤは小さいが、三陸のホヤは特に気仙沼より北のものは大きい。</p>
[本田委員]	<p>子ども達の知的好奇心が掻き立てられるよう、家の人も興味を持てるようにと思う。</p>
[沼里委員]	<p>私は元中学教師であり、子ども達が何をきっかけに行動するのかについて、関心があった。</p> <p>道徳の教科書に宮沢賢治の「よだかの星」の話が載っていて、文化祭が近い頃、それをクラスで読んだ。騒いでいた坊主がシーンとなった。</p> <p>その後、文化祭でのテーマとして、宮澤賢治の童話を各班で作品を決めて、物語を絵にすることに進んでいった。絵が上手な子も、下手な子も、それぞれの分担の絵を描いた。文化祭の後、クラスの雰囲気が変わったと感じたのを覚えている。</p> <p>観光ガイドをしているが、高知県一の啄木ファンを自称する人を案内して、不来方城跡の啄木の歌碑に連れて行った。公園の草むらがあるとそうすると言っていたが、その人は周囲にいる人に構わず、寝転んで啄木の歌を大声で吟じた。人を動かすのは「感動」だと思う。</p> <p>テーマに戻ると、困ったときにどう乗り越えてきたか。岩手では、三閉一揆に限らず、大震災も経験してきた。</p> <p>博物館のイメージで、人を動かす何かがあればと思う。</p> <p>博物館で、時期々々にこれがメインだというイベントを作ってほしい。</p>
[館長]	<p>40周年記念展についてはずっと話し合ってきた。震災から10年経過するが、震災を忘れまいという展示ができないか、それが職員の意見だった。</p> <p>全員が参加して、一人残らず関わって、復興オンリーではなく、と考えている。</p> <p>今、各学芸員が色々各部門の掘り起こしを行っているところであるが、今後ともご意見をいただきたい。</p>
[菊池委員]	<p>震災時は野田村の中学校にいた。学校においても、復興教育ということで進めてきているが、確かに風化というか、大震災が薄れてきていることは感じる。</p> <p>40周年特別展は、博物館ならではの視点、信念、伝えたいこと、技術力、そういうものがあればよいのではないかと思う。</p>
[玉館委員]	<p>切り取りの件があってから、博物館に対して、そういうフィルターがかかってしまう。できるだけ早く調査に区切りをつけて、信頼が回復されることを期待する。</p>
[細越委員]	<p>40周年記念展は部門がまたがっているということ。ポスターを何種類か作ってみてはどうか。</p> <p>久慈の恐竜の骨が来たらうれしい。琥珀博物館に見に行くツアーがあってもいいかと思う。知事をお願いして、あまちゃん、のんちゃんに来てもらうのもよいのでは。</p>
[山本委員]	<p>各分野でメインになるものの展示、教えられるものがあればと思うし、家の人に関心を持たば子どもも来ると思う。大人が体験するようなイベントなどはどうか。</p>

	<p>解説員は研修を受けていると思うが、自信と誇りを持って展示室にいて、来館者に寄り添った存在であるようにと思う。</p> <p>文化財取扱研修会に参加したことがあるが、「紙の取扱い」の研修を行ってほしい。</p>
[菅野委員]	<p>専門研究に係る環境についてであるが、研究予算を少しずつでも増やして無理なく研究が進められるような雰囲気を作っていただくようお願いしたい。</p> <p>文化財の保存、研究は県博の使命、基本である。自治体史の編纂への協力もお願いしたい。どういう手伝いができるか、地域で関わる人をどう育てるのか、博物館に期待されることも大きいと思う。</p> <p>そういうことも踏まえて、学芸員の皆さんの研鑽に期待する。</p>
[議長]	<p>40周年ということで、建物、ハードで何か新しくというものはあるか。</p>
[副館長]	<p>気持ちは十分あるのだが、先立つものがなかなかない。老朽化等により、対応が必要なものは、その都度主管課に相談して直してもらっている。</p> <p>とはいえ、やらなければならないものもあるので、一緒に検討していきたい。</p>
[議長]	<p>40周年ということで県民に対して訴えやすくなると思うので、是非そちらの方もよろしくお願いしたい。</p>
[議長]	<p>他になれば、これで議長の任を解かせていただくが、貴重ご意見を沢山いただき感謝する。</p> <p>今日いただいた「博物館ならではの視点」、「岩手らしさ」など、これから更に吟味して、県民の知的好奇心に火をつけるような特別展にさせていただきよう期待する。</p>
(3) その他	<p>なし。</p>
[議長]	<p>以上をもって議事を終了する。</p>
[館長挨拶]	<p>本日は、長時間にわたってご協議ご協議いただき、また貴重なご意見をいただきありがとうございます。</p> <p>不正サンプリングの問題は、6か月経過した。その間、職員も館としても大変傷ついてきたが、今後の運営については十分気をつけていきたい。</p> <p>館には、子どもたちに沢山来てほしい。来年度は、子ども新聞を全県配付する。</p> <p>私が中学生だった頃は県内約9万人いたが、それが今は3万人、20年後には1万5千人になるとの推計もあるようである。子供たちが歴史を受け継いでいけるようにと強く思う。</p> <p>また、高齢の方々にとっては博物館がサロンになるように思っている。</p> <p>ご意見等を今後ともお寄せいただきたい。本日は、どうもありがとうございました。</p>
7 閉会 [総務課長]	<p>以上で協議会を閉会とする。</p>